

## 裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年7月11日(金)

# みんなの居場所

## 【雑感】乱読は「OK」なのか

先日、雑誌でこんな話が紹介されていました。「小学生や中学生は乱読をすべきだ」と。つまり、読書のジャンルを分け、物語や説明文だけでなくエッセイや詩集、果てはマンガまで、とにかく色々な分野の文章を、乱読しなさい」というものでした。よく、大人は「マンガじゃなく字が読めない」といってある小説なんかを読みなさい。」「なんて言っていますよね。その雑誌の中でマンガを読む子に「マンガを読みなさい」というのは、逆効果と紹介されていました。その根拠は、読書家は殆どこの場合、マンガもたくさん読んでいくのです。確かに私もマンガをたくさん読みました。それが高じて読書が趣味になったのかもしれない。さてこの話題、保護者の皆様は「どうお考えですか?」そういえば、私の読書を振り返ってみると、確かスタートはマンガではありませんでした。なんと、伝記です。1年生の時に買った「野口英世」の伝記がスタートでした。それからしばらくは伝記に凝りましたが、その後はマンガでしたね。野球をやっていた関係で、「時期「ドカベン」しか読みませんでした。しかし、そこから色々なマンガを読むようになります。例えば「釣りキチ三平」。私は本格的に釣りをしたことはありませんが、このマンガから大自然への畏怖や大切さを感じ取ることが出来ます。「おーい草馬」も読みました。実在した人物であり好きな歴史上の人物が故に、のめり込んで読みました。実は、この二つのマンガは社会人になって文庫本サイズを大人買いしてしまいました。読書月間に入ると、私たち教師はつい「マンガはだめだ。」なんて言ってしまうのですが、そのあたりどう判断すべきなのでしょう。児童の学習の実態を細かく分析し、家庭環境、地域の願いなどをクロスし、スクリーニングして、最善の読書環境を提供したいものです。そう考えると、乱読も良いような気がしてなりません。

## 【雑感】仕事をすると大切なこと

相手があるという教師の現場において、保護者、地域の方々と連携し、教育効果を上げていくために、私たち教師が最低限守るべきことを書いてみます。これは教師だけでなく、大人が守るべきルールであり、子供達に行動で示していく必要があります。子供達は大人の姿をみて善悪の判断基準を作りますので、非常に大切なことですね。

### 【時を守る】

時間を守るということ、社会人として基本中の基本です。我々大人は「時間を守りましょう」と指導していますが、我々が襟を正さなければ、指導したことの説得力に差が出てしまいますね。大人の言動に説得力を持たせるためにも「時を守る」ことは重要だと思っています。

### 【場を整える】

学習環境をきちんと整えることで、学習に対するモチベーションも上がります。目の前にきちんと整えられた教材、教員があれは「子供達は「頑張ろう」という気持ちになるはず。」「家庭では如何でしょうか。無駄を省き、きちんと整頓整頓することは、仕事や勉強の効率を上げるための一番の近道だと思っています。

### 【礼を尽くす】

社会人として働く殆どの場合、目の前には人かいます。私達教師の仕事には、児童生徒、保護者の皆様がいっぱいいます。私達教師は子供や保護者の皆様の願いをくみ取り、最高の教育を提供しなければなりません。それが相手に対する礼儀だと思います。責任でもあります。学校での場面だけでなく、人とのつながりの中で、相手を尊重し、礼節を重んじた接し方ができれば、多くの問題は回避できます。こういった意味から「礼を尽くす」ことは大切なことです。

### 【言葉に、謙虚に、感謝に】

この4つを忘れると、人間としての成長はあり得ません。お陰様で自分が成長させて頂いていることを忘れないようにしたいものです。私は自戒の意味で、前記4点について、大人としてできているかどうか、自己検証しています。

## シリーズ「自分を語る」#26

龍田小学校での臨探としての勤務が始まり、毎日充実した生活でした。採用試験に向けても、それなりの努力をしていました。通信教育の講座を受講しながら、ピアノは幼馴染にピアノの先生がいて、その子から教えてもらいました。このピアノの練習は、筆記試験の勉強よりきつかったです。この幼馴染のレッスンはスバルで、週二で指導を受けていたのですが、練習をしないといけないから、もう帰らないよ。あのね、澤田君。こじは練習をする場所じゃないの。レッスンの場所、練習をしてくる来ない。「当時の私は楽譜が読めないものだから、練習の仕方が解らないのです。音楽専科の先生から教われば良いのですが、その先生が怖くて、中々話しかけられないという状況もありましたからね。今だから話せるのですが、当時は同級生のこの女の子が、音楽専科の先生への怖かったです。」

2回目の採用試験です。できる限りの準備を行いました。毎日の時間は机に向かうようにしました。これが習慣にならず、意外と楽なもので、逆にそうしないと寝付けないという状況でした。また、通信教育の講座の模範試験は調べて答えを書いていいというものだったので、毎回確実に新しい知識を身に付けることができました。

いよいよ2回目の教員採用試験本番です。当時の試験は一次試験で筆記の他、ピアノ、水泳、器械運動、集団討論等がありました。一次試験の結果は、確か9月の半ばに発表だったと思います。同じ学校で臨探をしていた仲間が話していました。「合格の場合、封書の厚さが違います。」私はその年も諦めムードでした。

発表だと思いきや、勤務終了後、投げやりな気持ちで私は県の運動公園にいました。職場の仲間と一緒にテニス愛好会を作って楽しんでいたのです。何かやっているいは気持ちも紛れるような気がしました。仕事の後にテニスです。今では考えられないでしょうね。働き方改革の真っ只中、今更復活しなければならないなんて思っています。

さて、話を元に戻しまして…。2度目の採用試験、どうせ今年もダメだと思っていたから、それを忘れるようにラケットを振りました。自宅には予想通り、教育委員会からの封書が届いていました。どれ位の厚みがあったのでしょうか、家族しか知りませんか? (つづ)